

公共施設等総合管理計画についての意見と対応（案）

※ページ数は第4回行財政改革推進委員会で配布した公共施設等総合管理計画(案)のページです。

番号	指摘内容	ページ	対応(案)
1	99ページの全部の施設について、一次評価、二次評価をして、最終評価まで決めるということによいか。	－	再配置を検討する施設としましては、基本的に財政負担の大きい200㎡以上の公共施設を対象と考えています。対象施設につきましては、一次評価、二次評価を行い、その結果を踏まえて最終評価を行います。最終評価につきましては個別施設計画に反映します。
2	「公共施設20%を20年間で削減する」ということはこのペースで間に合うのか。	－	目標達成は厳しい状況と認識しています。施設を廃止後、解体完了までに時間を要しますが、用途廃止の時点で施設の機能と費用は停止します。そのため、計画では用途廃止までを目標に設定しています。まずは一次評価・二次評価を通じて各施設の現状を把握し、その結果に基づいて具体的な対策を検討します。
3	施設カルテがあると思うが、基本情報とか利用状況、財務状況が載っているの、維持管理とか施設のあり方を検討する材料になると思うが、この資料を載せるべきと思うがいかがか。	－	公共施設カルテの作成を進め、その情報を基に再配置検討を行います。公共施設カルテにつきましては、作成後にホームページに掲載します。また、本計画につきましては、公共施設カルテの活用について追記いたします。(P49)
4	概要版の資料3-2でまとめられているが、策定の目的がここで記述されている。例えば「上田市は民間活力導入などを検討する公共施設マネジメントの取組が求められている」というところだが、そのときに具体的にこれくらいの支出をしていた公共施設について、民間であったりとか地元の自治会に移譲によって何年までに何億円削減するであったりとか、こういうものが必要になってくる。そのときに例えば、資料の3ページ目第3節で対象とする公共施設で、用途として似通う交流施設とかコミュニティのようなものが公民館、農村環境改善センター、勤労者福祉センターや老人福祉センターなど、コミュニティ施設として共通の用途がありそうだと判明する。そうすると、例えば老人福祉センターのあるところについて、公民館はどうするのかっていうところで一步踏み込まないと、先ほどのその公共施設20%減というのはなかなか難しいかもしれない。つまり、これはその用途等を考えながら、削減ができるか。ここを拠点にできるかどうかというところで探っていないと、公共施設の20%削減ってなかなか難しいのではないかというふうに思う。	－	施設削減目標達成に向け、民間活力導入や類似施設の統合や複合化の重要性は認識しております。施設の再配置検討では、1次・2次評価のプロセスに「近隣に類似施設があるか」を考慮する項目を設けています。安易な削減はサービス低下を招くため、削減後もサービス・機能が低下しないよう、用途や地域ニーズを考慮しながら削減について検討してまいります。

番号	指摘内容	ページ	対応(案)
5	一次施設のための施設区分の表ですが、Ⅰ～Ⅲの3つの区分の「主な施設」の分類について、16に分類されている施設類型の建築物を具体的に細かく振り分けた表はありますか。もしくはⅠ、Ⅱどちらの区分にも当てはまるものがあるなど、あえて細かく記載していないのでしょうか。	100	ご指摘のとおり、ⅠとⅢが混在している施設類型があったため、主な施設の記載といたしましたが、より分かりやすくなるよう、施設の区分ごとの施設類型を記載いたします。(P56)
6	一次評価指標の④利用状況と⑤稼働状況について稼働状況について年間利用コマ数とのことわかりやすいですが、市民利用型施設の場合の利用者数の「利用」をどのように定義づけているのでしょうか。単純に入館した人数でしょうか。また、施設の利用状況・稼働状況が一覧になった閲覧できるリストはあるのでしょうか。同じくコスト状況もリストがあるのでしょうか。	101 102	「利用」につきましては、施設利用に予約が必要、または入館に受付が必要である等、人数を把握できるものを想定しています。 しかし、図書館など出入りが自由で人数の把握が難しいものは、貸出冊数など代替え出来るものがあるか、評価の対象から除くかなど、施設所管課との調整が必要と考えています。 施設の利用状況・稼働状況・コスト状況の閲覧ですが、上田市HPで公表している公共施設カルテがこれにあたります。しかし、現在は一部の施設、一部の情報しか公開していない状況ですので、公共施設総管理計画の改訂に合わせて、他施設についても公表してまいります。
7	101ページの注釈※2、3、4、5、6が本文と連動していないようです。	101	誤記ですので修正します。(P57)
8	第4節計画期間 計画期間は第三次上田市総合計画の計画期間に合わせ、令和8年から令和17年までの10年間とします。 ※赤字を追加	P3	第三次上田市総合計画との整合は意識しておりますが、公共施設等総合管理計画は施設の更新時期や財政見通しなどを踏まえて独自に期間を設定しています。

番号	指摘内容	ページ	対応(案)
9	有形固定資産減価償却率の推移 有形固定資産減価償却率が高いほど、法定耐用年数に近い資産が多いことを示し、施設等の老朽化が進んでいると判断できます。(有形固定資産の老朽化度を測定する指標) ※赤字を追加	P11	追記します。 (P11)
10	下段 橋梁数及び橋梁面積 ※特に面積の大きな橋は、S59の小牧橋 H11年の常田新橋	P22	追記します。 (P22)
11	基本方針と目標 公共施設5原則の2 公共施設を適切に維持管理し耐震化と長寿命化に努め	P43	ご指摘の通り、本計画では、公共施設を耐震化や予防保全による計画的なメンテナンスを実施することにより、長寿命化を図るとしていますので、方針を明確化するため公共施設5原則を修正します。 (P43)
12	コンパクトシティの実現に向けて、総合管理や立地適正化計画など他の施策との連携を図ります。	P48	修正します。 (P48)
13	第4節計画推進のため今後の取組 施設カルテについて 公共施設マネジメントの基礎資料のひとつであり、施設のあり方、維持管理等を検討する際の資料として、施設の現状について市民の理解を深めていくためのツールとして活用していきます。(現状の見える化)	P49	追記します。 (P49)

番号	指摘内容	ページ	対応(案)
14	「①公共施設のあり方を見直し「総量の削減」を目指します。」 この「公共施設のあり方を見直し」という文言は何度も出てきますが、どうあり方を見直すのか、見当たりません。どこかに定義されていますでしょうか。	43	公共施設のありかたの見直し方法につきましては、第4章 第2節 施設の再配置検討(P54)により、再配置手法の選定を行うことを、方法の一つと考えています。
15	<公共施設のあり方を見直し総量の縮減を目指します> 複合化、統廃合、民間譲渡、用途廃止、などによって20%削減するという計画ですが、20年間の進め方としてロードマップが必要と思いましたがいかがでしょうか。	44	公共施設総合管理計画の目標を実効性のあるものにするためには、具体的な工程表＝ロードマップの策定が不可欠と考えます。 現状、「個別施設計画」でロードマップを策定しておりますが、本計画の改訂に基づき、ロードマップについても改訂します。
16	<公共施設を適切に維持管理し耐用年数まで大切に使います> 以前上田ビジョン研究会が企画した公共施設をテーマにした上田リバーズ会議にご参加ありがとうございました。その時に講師の三宅氏から倉敷の実践を学びました。ここに記載している方法以外に、各施設の管理者が研修を受けて自分たちで塗装したり、網戸を張り替えたり、雨漏り対策などをおこなっているとのことでした。確かそのための年間予算をつけて、施設管理者たちによって計画的に実施され、大きな修繕が必要となる前に行うことで、維持管理の効果と費用削減効果も高いと聞きました。そのような実践はされないでしょうか？	45	倉敷市の取り組みは非常に参考になる事例だと認識しております。上田市でも、施設管理者の維持管理に対する理解を深めるため、まずは施設の維持管理研修の実施を計画しています。 現時点では、管理者による軽微修繕の実施体制や予算措置までは予定しておりませんが、今後の研修の成果を踏まえながら、適切な対応を検討してまいります。
17	<⑦ 脱炭素化> 「2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロの実現を目指し」とありますが、「エコオフィスうえだ～第五次上田市役所地球温暖化防止実行計画～」と「上田市地球温暖化対策地域推進計画」がありますので、こちらを記載の方がよいと思います。公共施設は民間施設に先んじた脱炭素化を求められています。 修正案)耐震化や長寿命化の実施の際に、「エコオフィスうえだ～第五次上田市役所地球温暖化防止実行計画～」及び「上田市地球温暖化対策地域推進計画」に則した断熱改修などを行い、公共施設の脱炭素化を推進します。	45	修正します。 (P45)

番号	指摘内容	ページ	対応(案)
18	<公共施設を整備する際は統廃合などを検討します> ④これから新しく建設したり更新する建物は2050年まで残る建物ですから、最初からZEBを目指すべきです。改修による脱炭素化は新築の場合の3倍以上のコストがかかると見込まれています。「ZEB(ゼロエネルギービルディング)を目指し、脱炭素化を推進します。」としてはいかがでしょうか。	46	修正します。 (P46)
19	<公共施設マネジメントに市民の理解と協力のもとで取り組みます> 倉敷の三宅氏によると、市民の理解とは別に、実行のためには庁内の意識改革が重要とのことでした。そのために研修を実施したり、マンガで説明したり、施設職員のための点検マニュアルを作成したりされていました。そのようなことは書きにくいですか？	46	計画推進のための今後の取組みとしまして、第4節 計画推進のための今後の取組(P49)に職員の研修、点検マニュアルの活用について記載しております。現状につきましては、作成した点検マニュアルを活用するため、施設の点検方法について研修を実施しております。
20	【幹線道路の整備】 災害時の避難・緊急車両・工事車両・物資輸送の通行確保のために最重要 上田バイパスの4車線化 上信道の早期着工 上田地域道路整備要望箇所(上田地域7期成同盟会) 国・県に要望していると思いますが、他県に比べても比較にならないほど遅れている。	—	幹線道路整備事業は重要な施策と承知しておりますが、本計画に基づいて推進を図っていく事業ではございませんので、担当課とも情報共有を行い対応してまいります。
21	【その他】 現在、中学校の特別教室にはクーラーがありません。また、6中は4階建てですが、エレベーターがありません。熱中症対策、バリアフリーの観点より検討してください。	—	学校を所管しております教育委員会では、現在、エアコンの設置要望が高く、特別教室でもある理科室、家庭科室について、小学校を優先して設置しており、順次、中学校にも設置していく予定です。また、第六中学校のエレベーターにつきましては、学校とも相談しながら検討していきます。
22	【ダウンサイジング】 ダウンサイジングは有効な手段だと思います。10%事業規模(事業費)を削減した場合、効果が10%減る場合と10%削減すると効果が20~30%減る場合もあります。事業によっては考慮しなくてはならないと思います。	48	ご指摘の通り、ダウンサイジングによる事業規模の削減は、必ずしも単純な効果の比例的な減少に繋がるとは限りません。事業の種類や性質によっては、規模を縮小することで効率が低下し、期待される効果を大きく損なう可能性があります。ダウンサイジングを検討する際には、事業特性の分析、効果測定、代替案検討、住民との合意形成などを慎重に行い、各事業に応じた適切な方法で、公共サービスの質を維持しながらダウンサイジングを行います。

番号	指摘内容	ページ	対応(案)
23	計画のビッグゴール(錦の御旗)を定めるべきではないか。端的なフレーズで、目にした誰もが目指す方向性が理解できる言葉を表紙に記載したらどうか。 例えば「子どもも、高齢者も、障がいのある人も、すべての市民が心豊かで快適な生活を営める上田市を目指して」など	－	【案】 1. 「未来へつなぐ、みんなの財産」 2. 「持続可能なまちづくり、計画的な施設管理」 3. 「施設も人も輝く、持続可能なまちづくり」 4. 「計画から実行へ ～みんなで築く豊かなまち～」 5. 「安全・安心・効率的 ～公共施設の新たなステージへ～」
その他変更内容		8 ～ 11	第2章第2節 財政状況の推移と課題で掲載しているグラフ(歳入、歳出、投資的経費、維持管理費、維持補修)について、R5までだった数値を、R6までに変更それに伴う年平均等の数値の変更
その他変更内容		54 ～ 98	第4章第2節 施設分類別の状況を「資料編」とし、巻末へ移動 (P66～P110)
その他変更内容		－	第4章第2節施設の再配置検討に「施設の再配置検討の基本的な考え方」を追加 (P54)